様式３

令和７年度学生支援プロジェクト事業最終報告書

棚田発！日本のこころプロジェクト

代表者　　宇都宮　舟　（農学部応用生物科学科２年）

１．目的と概要

今プロジェクト事業は、小豆島中山地区の棚田で実際にお米作りをし、棚田での稲作について学びつつ、中山千枚田の美しい景観、中山農村歌舞伎など伝統ある魅力を感じ、それを発信することでより多くの人に中山地区の魅力を知ってもらうことを目的として活動している。中山千枚田は日本の棚田百選に選ばれており、多面的機能を発揮していると認められ保全が推進されている。また、中山農村歌舞伎は国の重要無形民俗文化財に昨年指定され、ともに注目されている。しかし、近年、耕作者の高齢化により、耕作放棄地の増加や主に現地の方によって開催されている地域のイベント運営の存続が難しくなっている現状がある。このような問題を前に私たちにできることはないだろうかと考え、このプロジェクトでは、私たち自ら棚田での稲作や地域文化に携わり、その経験や小豆島、中山地区の魅力を多くの人に伝えることで、中山地区の棚田の保全と地域復興を目指している。

２．実施期間（実施日）

令和７年４月２０日から　令和７年１１月３日まで

３．成果の内容及びその分析・評価等

今プロジェクト事業は今まで受け継がれてきた例年の活動を基に継続、発展させたものである。主にお借りした棚田の一部で稲作を行い、それに加えて、農村歌舞伎や虫送りといった中山地区の伝統行事に参加した。また、香川大学農学部の行事である収穫祭では、私たちが棚田で作ったお米を使い、おにぎりづくり体験を実施した。

棚田での耕作活動としては、４月棚田に水を引く水路掃除に始まり、中山地区の農家の方々、地域おこし隊の方からご指導いただきながら、6 月に荒作り、本作り、田植え、１０月下旬に稲刈りを行った。田植えの際には、地域の小学生を募った田植え体験にも参加し、指導を行った。また、稲刈りの際も同様に稲刈り体験が開催され、携わった。その他の活動としては、６月に虫送りで使われる数百本にも及ぶ、火手作り、７月には伝統的な地域行事である虫送りに参加し、来場者の誘導や受付を行った。９月には農村歌舞伎に参加させていただいた。１１月に実施した収穫祭でのおにぎりづくりでは、私たちが作ったお米を食べてもらいつつ、プロジェクターを使い、活動風景を説明と共に映したり、中山地区の風景を印刷したポストカードを配布したりすることで、私たちの

活動や中山地区の美しい田園風景等の魅力を来場者の方に知ってもらうことができた。この収穫祭の際には、中山地区の復興に金銭的な面でも貢献したいと考え、募金を行い、募金いただいた方には、持ち帰り用のお米を謝礼に配布した。

昨年度作製した棚田の会オリジナル T シャツを着て、活動に参加することで多くの人に棚田の会を知ってもらえるようにした。

４．この事業が本学や地域社会等に与えた影響

今プロジェクトが与えた影響としては、小豆島、中山地区の魅力発信、中山地区の行事に参加することによる直接的な貢献の２つが主に挙げられる。収穫祭でのプロジェクションや日々の活動を SNS で発信することによって、学生や地域の方を中心に興味を持ってもらうことができた。また、中山地区の地域行事に携わり、労働力として貢献できた。耕作においても、少子高齢化が進む中山地区において後継者不足に対する手助けができ、棚田の維持に貢献できたのではないかと考える。

５．自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

今プロジェクトでは棚田という珍しい田んぼで稲作を行う。地形上、平坦な田んぼで行われる通常の稲作と違い、大型の機械が使えず、手作業での田植え、稲刈りや小型の機会を使うことになる。こうした経験は通常、なかなか得られないため、貴重だと感じた。また、こうした、機会の使い方、作業の方法は小豆島の方から直接ご指導いただくため、幅広い年代の方、また、農家の方と交流する貴重な学びの場にもなった。今年度は、お世話になっている小豆島の担当の方が大きく変わり、新しく人間関係を構築する必要があった。担当の方が新任の方だったこともあり、お互い分からないこともありつつ、相談しどうにかやり遂げることができ、社会人との関わり方、日程調整等、学びにつながった。以上のような経験、特に離れた年代の方、農家の方と交流した経験は今後の学生生活、就職活動の際にも役立つと考える。

６．反省点・今後の展望（計画）・感想等

反省点としては、今年度、活動の参加者を十分に募れなかったことが挙げられる。今プロジェクトの参加者で主に活動しているほとんどが１，２年生だが、昨年度、１年生で多く参加していた学生が２年に上がり、学業等が多忙になったことで参加頻度が減ったことに加え、今年度の新入生の多くが他の学外活動と兼ねて参加していたことで、昨年と比較すると活動毎の参加人数が少なかった。これにより、時間の都合もあり、活動を完遂することができないこともあった。今後は、少しでも他の活動との予定調整がうまくいくよう、日程の早期共有を行い、引き続き、積極的に勧誘を行いたいと考えてい

る。昨年度 SNS をあまり活用できなかった反省点を活かし、今年度は広報担当を作ったが、その広報担当も多忙で活動にあまり参加できず、結果、すべての活動を投稿することができなかった。そのため、今後は、SNS の使用法を共有し、誰でも投稿できる様にすることで、その都度、活動に参加した者が投稿するようにしていきたいと考えている。

今後の展望については、今年度地域の方と話す中で、中山地区の高齢化により、小学生を対象とした体験の存続が今後難しいという具体的な課題を知った。そのため、今後、私たちが企画等主体的に運営に携わることで、伝統ある、地域の子どもたちに棚田へ興味を持ってもらう貴重な機会を守っていきたいと考えている。他にも、地域の方々とそうした問題について、話し合い、できること、より良い考えの相談ができれば嬉しいと考えている。

７．実施メンバー

代表者　宇都宮　舟（農学部２年）

構成員　吉田　楓　（農学部２年）
伊賀　亮　（農学部２年）
松崎　美咲（農学部２年）
中尾　綾香（農学部２年）
裏住　隼矢（農学部院生）
竹内　成太（農学部院生）
村口　絢（農学部院生）
岡田　柊香（農学部４年）
岡田　結衣（農学部４年）
金本　夕凛（農学部４年）
武田　奈々（農学部４年）
野田　聖（農学部４年）
檜尾　彩奈（農学部４年）
松原　晟良（農学部４年）
香西　徳太郎（農学部３年）
高見　樹希（農学部３年）
太田　康晴（農学部２年）
島津　穂乃歌（農学部２年）
出口　奈月紀（農学部２年）
中　菜々生（農学部２年）
畠山　修宗（農学部２年）
井下　愛梨（農学部２年）
松浦　藍斗（農学部２年）
村川　明日香（農学部２年）
五十嵐　芯（農学部１年）
石田　萌恵（農学部１年）
今川　輝和人（農学部１年）
大田　真裕（農学部１年）
川村　莉穂（農学部１年）
鈴木　碧（農学部１年）
千田　淑乃（農学部１年）
早川　陏人（農学部１年）

８．執行経費内訳書

配　分　予　算　額		２００，０００円		
執行経費（品目等）	数量	単価(円)	金額(円)	備　考
旅費：高松―小豆島（往復）	52	１，３３０	６９，１６０	
旅費：高松―小豆島（片道）	4	７００	２，８００	
旅費：宿泊費（田植え）	4	１，０００	４，０００	
旅費：宿泊費（虫送り）	11	１，０００	１１，０００	
旅費：宿泊費（農村歌舞伎）	9	１，０００	９，０００	
旅費：宿泊費（稲刈り）	6	１，０００	６，０００	
物品：Tシャツ	9	２，９０４	２６，１３６	
物品：Tシャツ送料	1	５，５００	５，５００	
合　　計			１３３，５９６	